

No.29-18 平成 29 年 12 月 25 日	<h1>漁況情報・浜の話題</h1>	神奈川県水産技術センター 企画資源部 046-882-2489 相模湾試験場 0465-23-8531
-------------------------------	--------------------	---

● 浜 の 話 題

- 11月29日、平塚市漁協は辻堂のココテラス湘南で神奈川県・JAグループ神奈川が開催した「かながわ農林水産品マッチング商談会 2017」に参加しました。当日は、同漁協の6次産業化の企画から誕生したシイラ・ソウダカツオ・サメ燻製の3品をバイヤーや参加者に試食してもらいながら、商品のこだわりについて説明し、良いPRの場となったそうです。



かながわ農林水産品マッチング商談会 2017 の様子

- 12月1日 藤沢市漁協に、かながわブランド振興協議会が任命したブランドモニター9名と関係機関7名が、「湘南はまぐり」（チョウセンハマグリ）の視察に訪れました。当日は、同漁協職員から湘南はまぐりのこだわりについて説明があり、モニターの方々はその大きさに驚くと共に、出荷先の料理店でお吸物を味わい、美味しさを実感していました。当日の様子は「かなさんの畑」ホームページ（かながわブランド振興協議会のサイト（<http://kanagawa-no-hatake.jp/>））で紹介されるそうです。



かながわブランドモニター視察の様子 湘南はまぐりのお吸物

- 平塚市漁協では、平塚の地場産にこだわった湘南しらす加工品、シイラやサメの燻製等、魚の加工品を詰め合わせた「須賀まかせ」を販売しております。12月2日には神奈川新聞情報欄で紹介されました。平塚の漁師こだわりの海の幸が味わえるのでご利用ください。
- 12月6日、茅ヶ崎市漁協で3つのテーマについて研修会を開催しました。①ライフジャケットの着用義務化と②組合員の資格審査については湘南地区県政総合C地域農政推進課の担当から、③サメの有効活用については平塚のサメの燻製製品化の事例を交え担当普及員から説明

がありました。当日は、同漁協組合員 29 名、県・市等の関係機関 5 名の他、地元の魚市場関係者、加工業者、パン屋、キッチンカー、料理店等 5 店舗と 6 次産業化プランナーの方々も参加され、特にサメを使った製品化に意欲を示していました。



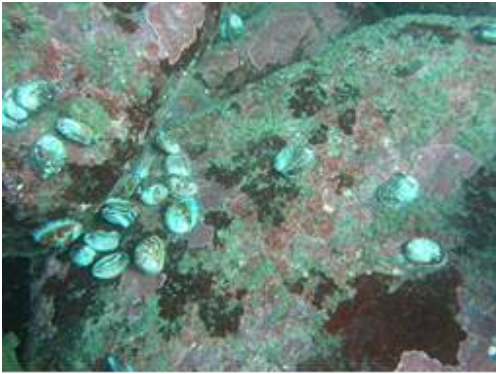
茅ヶ崎市漁協 研修会の様子

- 12月6日、長井町漁協所属の漁業者に養殖ワカメの生育状況を確認したところ、養殖施設を網で囲う対策を行っているものの、アイゴによると思われる食害が一部で発生しているとのことです。種系（ワカメの苗のようなものが生えている系）の挿し直しを適宜行うとのことでした。
- 12月6日、横須賀市東部漁協走水支所において、走水小学校の総合学習で児童によるワカメ種系つけ体験教室が行われました。同支所漁業者によるワカメの生態と漁業の説明の後に、ワカメ種系を切り分けて、縄に刺しました。小学校の窓から見える海面に筏を設置して春まで養殖します。収穫体験教室も予定しています。作業の後は、なぜ漁師になったのか、漁師の仕事の大変な点等の質疑がありました。



ワカメの種系を挿した縄

- 12月6日、小田原市漁協と相模湾水産振興事業団は、小田原地先にアワビ 4 万 500 個・サザエ 3 万個の種苗放流を実施しました。当日は磯根漁場を中心に放流を行いましたが、アワビ種苗は船上からの放流では魚類等に食害され易いため、潜水作業で放流を行いました。アワビ・サザエの種苗放流は小田原市の補助を受けて毎年実施されており、地先の磯根資源を下支えする取り組みとなり、今回放流した種苗も大きく成長して漁獲されることが期待されます。



着底しているアワビ種苗



着底しているサザエ種苗

- 12月7日、鎌倉漁協はアワビ種苗の放流を実施しました。（公財）神奈川県栽培漁業協会より千個の種苗を購入し、漁業者が潜水作業により地先海面に放流しました。放流したアワビが無事に成長することが望めます。
- 12月8日、13日、みうら漁協及び上宮田漁協所属の漁業者に養殖ワカメの生育状況を確認したところ、順調に生長しているとのことでした。10月後半に上陸した台風による影響は受けたものの、例年並みの収穫はできそうとのこと、漁業者も安心した様子でした。
- 12月9日、江の島片瀬漁協で、ワカメの養殖体験イベントが開催されました。当日は、藤沢市が募集した200名余りの親子が参加し、江の島の漁業やワカメ養殖について北村組合長から説明を受けた後、ワカメの親縄への種挿し体験をしました。昼食は、湘南しらすのに入ったパスタやヒジキご飯と、かながわブランドの江の島カマスのフライが提供され、「とてもおいしい!」と好評だったそうです。
- 12月10日、平塚市漁協では所属漁業者がしらす船曳網漁操業中にプレジャーボートにより網を切られる事故が発生しました。同漁協では、再発防止のため、しらす船曳網の概要をホームページに掲載しました。しらす船曳網漁は150mもある網を曳く漁法なので、操業中の漁船の後方を航行すると漁の妨げや漁具の破損に繋がるため注意するようホームページ上で呼びかけています。
- 12月11日から12日、小田原市産地協議会は先月に引き続き小田原駅前地下街のハルネ小田でイナダ、メアジ、ウルメイワシなどの朝獲れ地魚を直売しました。10月、11月と今回の計3回6日間の直売で合計1,000袋を超える売り上げとなり、地元の魚を市民の皆様に味わってもらう良い機会となりました。
- 12月12日、相模湾試験場の主催で「漁業への応用が期待される最新技術研修会」を開催しました。当日は、漁業者関係者等36名の参加があり、各分野の専門家から、アシストスーツの紹介と体験、定置網漁船の船型開発、電池推進船の紹介がありました。また、会場村上専門研究員からは、定置網等のドローン撮影映像の紹介と活用方法について説明があり、参加した漁業者は、最新技術について興味深く聞いていました。



漁業への応用が期待される最新技術研修会の様子

- 12月15日、腰越漁協の協力により、腰越小学校の5年生の児童がワカメの種糸挿し体験を行いました。種糸を挿し込んだ親縄は腰越地先海面で養殖され、来年の2月頃に収穫体験を行う予定とのことです。
- 12月15日、12月6日のサメ有効活用研修会の内容を受けて、地元のパン屋「ティンバーライ」さんが刺網にかかったドチザメを使ってサメバーガー（仮称）を試作しました。下味を付けたサメのフライとレタスを挟んで、タルタルソースで味付けした一品で、同漁協木村組合長と職員、茅ヶ崎市職員が試食し、「とてもおいしい！」と絶賛していました。
- 平塚市漁協のPRキャラクター「ひらつかたま三郎」くんが、日本郵便南関東支社の「ご当地キャラクターに年賀状を送ろう！」キャンペーンの対象となりました。このキャンペーンは、お気に入りのご当地キャラに年賀状を送ると、そのキャラからオリジナル年賀状が届くという企画だそうです。
- 12月に入って、茅ヶ崎市漁協でワカメ養殖を営む5軒の漁業者が、種挿しした親縄を烏帽子岩の西側に張立てた養殖筏に設置しました。今年は、木村組合長の養殖筏で長崎県の暖海性ワカメの育成試験も行っています。同漁協では、「えぼしわかめ」を味わってもらうため、来春2月3日（土曜日）に「生わかめまつり」の開催を予定しています。

●お知らせ

- 来年の1月12日金曜日午後1時より、神奈川県漁業者交流大会を地球市民かながわプラザ（最寄駅：根岸線本郷台駅）で開催します。活動発表は「新名産「湘南はまぐり」～資源復活～ブランド化の歩み」、活動紹介は「平成29年度神奈川県漁業士会の活動」、話題提供は「救命胴衣着用義務化について」及び「神奈川県立海洋科学高等学校の教育活動（①相模湾東岸に位置する小田和湾周辺的环境保全と改善の取り組み ②水産調査 水産食品の研究と開発 2017 海洋科学高校ブランド！新ツナ缶の開発と地元生産者との協働・連携について）」を予定しています。皆様お誘いあわせの上ご来場ください。